

これからの
季節に
備えて

地震への備え

2011年3月11日、14時46分、宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmを震源とする東日本大震災が発生しました。この震災で多くの方が犠牲になり、今も復興工事が続いています。東日本大震災から10年が経とうとしている今、改めて地震への備えの確認をお願いします。

地震発生状況

日本は、地震・火山活動が活発な環太平洋変動帯に位置し、小さな国土にもかかわらずマグニチュード6以上の地震の発生割合が全世界の約20%を占めています。

過去30年間では最大震度7の地震が6回発生しており、建物等の被害だけでなく、多くの人的被害がありました(表1)。

地震による畜産関係の被害

2018年9月6日に起こった北海道胆振東部地震は、道内の家畜、畜産物、畜産用施設に甚大な被害をもたらしました(表2)。道内で使用される電気の半分以上を供給していた苫東厚真火力発電所が緊急停止し、道内の離島などを除くほぼ全域で停電が発生したため、酪農現場では、搾乳ができずに乳房炎が発生する、保存されている生乳の冷却ができない等、大きな損失が発生しました。

まずは、命を守る行動を

地震発生時、家畜の近くや倒壊しそうな場所で作業をしている場合は、直ちに安全な場所に避難し、危険な場所に近づかないようにお願いします。

表1. 過去30年間に日本で発生した最大震度7の地震

発生日	発生時刻	地震名	死者・行方不明者※
1995年1月17日	5時46分	兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)	6,437人
2004年10月23日	17時56分	新潟県中越地震	68人
2011年3月11日	14時46分	東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)	22,288人
2016年4月14日	21時26分	熊本地震(前震)	273人
2016年4月16日	1時25分	熊本地震(本震)	
2018年9月6日	3時07分	北海道胆振東部地震	44人

※災害関連死を含む

表2. 北海道胆振東部地震による畜産関係の被害状況

主な被害	被害数	被害額(億円)
家畜※	530,647頭羽	0.9
畜産物(生乳等)※	23,437t	23.6
畜産用施設	294件	11.4

※停電による2次被害も含まれる

出典：農林水産省ホームページをもとに作成
https://www.maff.go.jp/j/saigai/zisin/180906_iburitobu/higaijyokyo.html



地震対策のお願い

〈耐震診断・補修〉

- 必要に応じて畜舎・施設等の耐震診断を実施し、補修を行う
- 送風ファンや照明灯等の各種機材が落下しないよう、天井・壁等にしっかりと固定されているか確認する

〈非常用発電機及び機器の確認〉

- 停電に備えて、定期的に発電機の点検をしておく
- 消火設備(消火器、火災報知器等)を設置し、正常に作動するよう定期的に点検する
- ポンプ等の動作確認をしておく

〈その他〉

- 飼料・燃料は少なくとも1週間以上必要な在庫量を確保する
- 飲水も貯留タンクの設置やくみ上げポンプなどを準備する
- 懐中電灯など非常用の照明器具を、暗闇の中でも使用しやすい場所に保管しておく
- 人や家畜の避難場所を確認しておく
- 農協やくみあい飼料への連絡手段を確認しておく